

前橋市立前橋高等学校

めぶく

地域活性化プロジェクト



探究通信 第8号 新年スタート号 R4.1.7

2年生、市議会議場で堂々と提案 前橋市高校生模擬議会

新たな前橋へ 地域課題を解決する具体策を 1年次からの探究学習の集大成

12月17日(金)に2年生が前橋市議会議場に、「模擬前橋市長選挙」で考えたマニフェストをもとに、よりよい前橋市となるための提言、質問を行った。生徒たちは「議員」として、前橋市長をはじめ、市教育長、市役所職員の方々に直接提案するという貴重な体験をしてきた。

模擬議会は2クラスずつ3回にわたって行われ、各回ごとに議長役が1人ずつ、質問者は6人で、それぞれの質問に2人のサポーターがつく形をとっている。第1回は2・3組が議場に臨んだ。



議長役は生徒が担う(上) 質問者とサポーター(下)

2組は「子どもから大人まで楽しめるテーマパーク(たればあく)について」「タレと環境問題について」の2案を提出した。3組は「子育て支援施設について」「高齢者の生活支援について」の2案を提出した。4組は「質の高い教育」の視点のもと、「寝られる前橋市について」の案(と他2案)を展開した。5組は「はちみつを使った前橋市の活性化について」(と他2案)を提出した。6組は「外国人の受け入れに関する提言を行った。6組は「貧困問題」についての質問を作り上げ、「ポバティーパスポート」「医療」、空き家を活用した「学童・託児所無償化について」の具体案についての提案・質問を行った。どのクラスの質問も、地域課題を解決する具体策を他県の例やデータに基づいて考えられたものであった。それぞれ、前橋市役所の各部の部長の皆様に丁寧な答弁をいただいた(議会で質問・答弁の様子は本校イチャムチャンネルにて視聴可能)。第1回は山本龍前橋市長、第2回は横山勝彦前橋市議会議長、第3回は吉川真由美教育長より、講評をいただいた。

今年度もまた、たくさんの方々にご協力をいただき、模擬議会議を開催することができた。活動を終えた生徒の振り返りシートには「この体験は市立前橋だからできたものだ」といった記述が多く見られた。



生徒に向けた講評を行う前橋市長

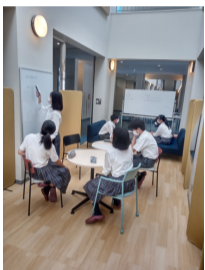
新メディアモール完成から5ヶ月

個人ブースとアクティブラーニングスペースの充実

昨年8月1日に「新メディアモール」が完成した。それまでも学習机が置かれており、早朝や放課後に自習する場所として使われていたが、生徒たちの学習環境の充実のため、今年度大幅なパワーアップをする運びとなった。



新メディアモールは、いわゆるラーニングコモンズである。アクティブラーニングスペースではカフェを思わせる



カウンター席やソファ席も設け、2年生の地域探究プログラムの打ち合わせやプレゼンの練習、小論文、面接練習等の場、担任との面談や質問の場として使われ



ている(もちろんそこの自習も可)。一方、学習に集中できるように設置した、大きく2箇所に分けた個人ブースは今回、受験生の年末の集中学習の会場となった。現在、主に3年生が使用するほか定期考査前には2年生も多く集まってきた。学習の場として活用している3年生の高田貴裕君(富士見出身)は「個人ブースは仕切りもあって使い心地がよい。集中できる」と話す。

秋から冬、市長選から議会まで



議会での代表質問を終えて

前号の探究通信7号でも触れたが、2年生は10月より、前橋市をよりよくする地域活性化プランをチームで(各クラス)で考案してきた。本活動は、自分自身が地域を作っている一人であることに気づき、その「意識・技能」「思考力・判断力・表現力」を持って多様な人々と協働して学ぶべき、その「意識・技能」を伸ばすことも大きな目的の一つだ。言葉にすれば、上記の通りだ。しかし、彼らはまだ言葉にできない、何かを進路に對して積極的になる姿勢を育むことを目的としていた。この経験は「めぶく」のための糧となつたはずだ。



市長選にて応援演説の出番を待つ



高遠は雪だった

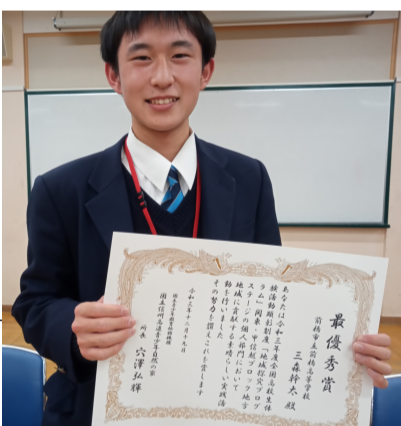
各人が自分の興味のあるテーマで地域活性化についてまとめ、発表するものである。11月に報告書を書き上げ、今回関東・甲信越のそれぞれの出場者が集まる、実践活動の発表会である。1日目に開催されたグループ部門には、石本蓮華さん・今井陽菜さん・櫻井心叶彩さん・下田歩果さんの班と飯島由佳さん・荻原彩笑さん・蒲生胡桃さん・黒木音々さん・星野杏さんの班が出場した。どちらの班も、「まえばしハニートプロジェクト」の連携を通して、前橋市の活性化についての発表を視点を交えて行った(発表の後は、審査員からの質問を受け、その応答についても審査の対象となる)。2日目は個人部門が行われ、けやき祭で前橋中心商店街とのコラボレーションを果たし、自身の属するクラスでは商店街で動画を作成し、足を運ぶきっかけを作る仕掛けを作ったことに関してまとめた廣澤希々香さん、夏合宿にて赤城山の観光について課題を発見したことから、赤城山の活性化について模擬市長選や模擬議会でも提案したことをまとめた千吉良陽君、そして、安中市の碓氷峠にて観光客に向けた歴史ガイドやリーフレット配布等を行い、特技のカメラを武器にSNSにためがね橋周辺のPR動画を作成し、発信する活動について発表した三森幹太君が出場した。

個人で最優秀賞、グループで優秀賞

地域探究アワード関東・甲信越ブロック

12月18日(土)・19日(日)に国立信州高遠青少年自然の家(長野県伊那市)にて、全国高校生体験活動顕彰制度「地域探究アワード」地域探究アワードの地方ステージが行われた。

夏に国立赤城青少年交流の家で本校の代表として合宿に参加した2年生の12名が出場した。これは、2年生が取り組んだ模擬前橋市長選挙や模擬議会で



個人部門で最優秀賞を獲得した三森幹太君(木瀬中出身) 夏から本プログラムに参加した2年生12名(下)

厳正なる審査の結果、グループ部門で石本・今井・櫻井・下田(敬称略)班が優秀賞(全体2位)、個人部門で三森君が最優秀賞(全体1位)を獲得した。三森君は2月に東京代々木で行われる全国ステージに出場することとなった。快挙である。